



やらまいか

クラブテーマ：リラックス・ロータリー ～親睦と奉仕、肩の力を抜いて～

会長／樺山修一 幹事／細井勉 会報委員会／大仁孝泰・鈴木卓也 例会／毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所

事務局／豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 FAX0533-86-8889 HP: <http://toyokawahoi.tank.jp/>

本年度第32回 通算1711回 2023年3月28日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	3/7 修正出席率
		72名	37名	57.8%	68.3%

ゲスト：市内5高校の生徒と教諭の皆さん23名 (Zoom参加も含む) ビジター：(なし)

★会長あいさつ



樺山修一会長

本日は桜が満開の春休みの貴重な時間に生徒の皆さん、引率の先生方、豊川宝飯RCの例会にお越し

いただきましてありがとうございます。先週はWBCで日本チームが優勝し、感動を与えてくれました。大谷ロスになっている皆さんもお見えになるのではないのでしょうか。

コロナウイルスの第8波はピークを過ぎ、感染者数も減少傾向にあります。政府からの感染症法の扱いも5月8日から2類から5類へ格下げになる予定です。また、マスク着用についても個人の判断に任せられるようになりましたが、今日は高校生の皆さんが来場されるということでマスクの着用をお願いします。

3月18日の土曜日にホテルアークリッシュにて豊橋北RC主催の東三河分区IMが開催され、環境をテーマにした講演が行われました。豊橋技術科学大学の井上隆信氏からは「海洋プラスチック問題について」、また530運動環境協議会事務局の杉浦夕紀子さんからは「530運動環境協議会の活動報告」が行われました。今後も環境に関する問題については積極的に取り組んでいく必要があると思います。

式典では豊川RCの竹内幹尚次期ガバナー補佐の

紹介と挨拶がありました。旧知の仲でもあり、ちょっとドキドキしてしまいました。山内有恒ガバナー補佐のあいさつの中で、ロータリーの友3月号の横組みには当クラブの伊藤パスト会長の記事、縦組みの巻頭には昨年6月1日、渥美農業高等学校において田原RC主催で開催されたキャリア教育講演会の記事が掲載されています。東三河から大きな記事が2件も掲載され、大変、喜ばしいとおっしゃっていました。

伊藤パスト会長の記事は先週の雑誌委員会から報告がありましたので、もう一つの記事を紹介します。陸前高田市の株式会社八木澤商店 9代目社長 河野通洋氏の「震災から復興へ、発酵で町おこし」という講演記事で、東日本大震災で社屋・工場・自宅の全てを失うも、地域の仲間と共に復興に尽力し、また八木澤商店の再建を実現されるという奇跡の復活を成し遂げた方です。いかにして地域の復興がなされていったのかなど、大変、私たちにも参考になる素晴らしいスピーチ内容ですので、是非お読みください。

本日は高校生の皆さんによる一年間のボランティア活動報告が行われます。皆さんがどのような活動をされてきたのか、どのような成果があったのか、楽しみにしています。また、例会終了後には交流会も予定されています。コロナの影響で暫く開催できなかった交流会ですが、再び開催できることを嬉しく思います。高校生の皆さんには長時間になりますが、お付き合いいただけますようお願いいたします。

★幹事報告

細井 勉幹事

例会臨時変更のお知らせ

次回例会のお知らせ

東三河分区IMのお礼状

豊川市民展表彰式のお礼状

豊川リレーマラソン開催のお知らせ

★青少年奉仕委員会担当例会

青少年奉仕委員長あいさつ 熊澤克人委員長



皆さん、こんにちは。高校生の皆さんは春休み中だと思います。私の会社が佐奈川の近くにありますので、佐奈川付近を走

ったりしました。桜が満開で、子どもさんやご家族でお花見を楽しんでいました。今日来られている高校生の皆さんも本当は遊びに行きたいんじゃないかというのを抑えつつ当例会に参加して頂いたことに本当に有難く思います。ありがとうございます。本日は先生もご出席頂いております。本日参加してくれた生徒さんの内申にちょっと気心を加えて頂けると私的には嬉しいです。

私が皆さんと同じ高校生の頃は高校球児でした。野球ばかりやっていました。皆さんの様にボランティアという概念もなければ、活動すらしたことがありません。私から何を言えることはありませんが、生徒さん同士で活動の良い情報を持ち寄って、皆さんの活動に活かして頂けるような場を今回提供できた点は、皆さんのお役に立てるのではないかと考えております。今日は長丁場にはなりますが、最後までお付き合い頂きたいと思っております。宜しくお願い致します。

国府高等学校の発表 (Zoom)

国府高校では、赤い羽根募金、ポプラの植樹、清掃ボランティア、ゆうあいの里ボランティアの4つの活動を行いました。

例年、国府高校では赤い羽根募金を行っています。今年は26,715円が集まりました。皆さんの協力のお陰だと思っています。

次に、ポプラの木の植樹を行いました。国府高校

にはポプラの木というシンボルがあります。台風により倒木してしまったので、生徒会の方で植樹をしました。再び国府高校のシンボルになることを願っています。

次にゆうあいの里ボランティアを行いました。国府高校の生徒会や有志の生徒で行っている活動です。ゆうあいの里に行き、雑草を取るなどのボランティア活動を行っています。

最後に清掃ボランティアも毎年行っています。部活動で自分たちが使っている学校内を清掃しました。校外も日頃の感謝の意味も込めて清掃をしました。

以上で、国府高校の活動報告を終わります。ありがとうございました。

豊川高等学校の発表

今から豊川高校生徒会ボランティア活動報告を行います。供養塔清掃、ウクライナ難民支援募金、一億円募金、東日本大震災支援募金、地域清掃についてお話をします。



供養塔清掃は、2021年から活動を開始し毎月7日に行っています。1945年8月7日豊川海軍工廠空襲で2,500人もの人々が亡くなりました。戦後この空襲で生き延びた海軍工廠の従業員や遺族が中心となって八七会を設立し、戦没者の慰霊、工廠や空襲の記録、語り継ぎなどを行っていました。しかし、会員の高齢化のため止む無く活動終了となってしまいました。このまま活動が終了したら、75年間続いてきた平和への想いは途切れてしまいます。そこで、私たち生徒会執行部は、八七会の方の意志を受け継ぐために何かできないかと考え、供養塔清掃を引き継いでいくことになりました。これからも豊川高校の伝統として、この活動を続けていくことで空襲の歴史を風化させず、平和について考えることを続けていきたいと思っております。

ウクライナ難民支援募金は、今年度豊川高校で行われた学園祭のテーマは「平和と未来」でした。私たちは、今もなお続いているウクライナ戦争について知るところからスタートしました。サマーセミナーや名城大学の教授による講演会、池上彰さんのオンライン学習会への参加を通し、ウクライナ戦争について理解を深めていきました。そこで学んだこと

を踏まえて、私たちは何かできることはないかと考え話し合った結果、募金活動を行うことにしました。学園祭当日はもちろん、豊川稲荷で行われているヨルモウデや名城大学の方々と一緒に募金活動を行い、合計で384,617円を集めることが出来ました。予想を凌駕するほどの多くの人が募金の参加に協力して下さり、募金がこんなにも集まり驚いたと共に、戦争が少しでも早く終わってほしいという気持ちが伝わって、募金に参加して良かったと思いました。

一億円募金は、愛知私学奨学資金財団が主催として行い、学費に苦しむまだ見ぬ仲間たちを救うために年間12万円を無利子の奨学金として貸し出すための活動です。今回は、豊橋中央高校さんと高フェスの方々と一緒に豊川稲荷で行いました。初もうでの時期に行ったこともあり、1時間余りで合計103,090円も集めることが出来ました。高校生は、無力でも微力でもない、こんな言葉が似あう2023年の始まりだと思いました。

東日本大震災支援募金は、3月11日に東三河の高校の皆さんと一緒に豊橋駅で行いました。午前中は募金活動を行い、42,511円を集めることが出来ました。10年経った今でも大震災の被害は大きく、いまだに住む場所がなく日常を取り戻すための資金が足りない方々があります。この募金活動で、このような方々を支援することが出来て嬉しく思いました。午後からは鶴舞公園で追悼式が行われました。企業の方や一般の方、中高生、小さいお子様という幅広い年齢層の方がたくさんおみえになりました。当時4,5歳だった私たちにとって、あまり実感がありませんが、大震災によって多くの人の人生が大きく変えられてしまいました。自然災害は、いつどこで、どのくらいの大きさのものが起こるか分かりません。だからこそ事前の備えや地域の人々の支えが大事だと改めて思いました。

地域清掃は、豊川駅や稲荷口駅、稲荷公園など豊川高校生が登下校時に多く使用する駅や道、その周辺を清掃しました。全校生徒にも投げかけ、部活動などの参加もあり約90名の方が参加し、日頃の感謝を込めながら行うことが出来ました。地域からの評判も良く、達成感や充実感もとても多かったです。これからもこの活動を続けることで、私たちが住まわせてもらっている豊川を綺麗にしていきたいです。以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。

豊川工科高等学校の発表

豊川工科高校のボランティア部の発表を始めます。令和4年度の活動として、校外活動と校内活動について報告します。



子どもものづくり教室は、月に1度土曜日にプリオの4階で、小学4年生から6年生が工作するのを手伝います。うさぎロボットや未確認生物ロボットを作りました。

夏休み・おもしろ工作教室は、国府小学校で小学生と一緒に牛乳パック映写機を作りました。作ってみて良かった点は、作ったものをみんなで見せ合っていて、凄く盛り上がったことです。悪かった点は、牛乳パックの底の厚い部分を切るのに小学生がやるのに難しかったことです。

6月には豊川陸上競技場で豊川リレーマラソンのボランティアを行いました。当日は、会場設営や選手の誘導を行いました。

夏の献血2022では、豊川市総合体育館前でポッチャ体験が開催され、そのお手伝いをしました。ポッチャは、脳性麻痺などにより運動能力に障がいがある人向けに考案されたものです。ポッチャという別のスポーツから派生した障がい者スポーツの一つです。小さい子にルールを教えたり、一緒にやったりしました。

エコクッキングでは、カーボンゼロを目指してエネルギーを削減して何ができるか考えました。その結果、食材を無駄なく使ってゴミを減らしたり、同時調理をして化石燃料を減らしたりするという活動をしてみました。そこで、カレーライスとポテトサラダを作ることにしました。実践するにあたって、曲がったり、傷がついてしまったりして、大きさや色、形の悪い規格外食品を使いました。その食材は、部員の家族に農家さんがいて、その方から頂きました。更にエコマークの付いた商品や国産の商品を買い、輸送に必要なエネルギーを少しでも減らしました。カレーライスの同時調理は、研いだ米の上にクッキングシートを敷いて、おかずも一緒に炊くようにしました。小さな工夫ですが、なべ底の水気をこまめに拭くことで熱するときのエネルギーを少しでも減らしました。作ってみて味も普通に作るのと変わらなかったの、意外に行けるなど思いました。

文化祭では、フェアトレード商品の展示やフェアトレードについてのアンケートを行いました。アンケートをした結果、フェアトレードという言葉を知っている人は43%、聞いたことある人は27%、知らない人は30%でした。次に買い物をするとき重視することはという質問では、値段が83%、原材料が15%、原産地その他は10%でした。重複回答もあるので100%にはなっていません。集計してみてフェアトレードは、あまり知られていないということ、値段を重視する人が多いということが分かりました。値段を重視する人が多いということは、通常の商品より高い値段であるフェアトレード商品は選ばれにくいので、何か対策が必要だと思いました。良ければ皆さんも買い物の際に一度手に取ってみて下さい。

これで僕たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

宝陵高等学校の発表

今年度生徒会執行部が行ったボランティア活動の報告をします。

今年度は、前期生徒会、後期生徒会共に4つのボランティア活動を実施しました。



1つ目は、エコキャップ運動です。ペットボトルキャップを回収し、そのキャップを寄付し、諸外国でのワクチン購入に役立てることを目的としています。1週間の期間で生徒会執行部が回収ボックスを設置します。集まったキャップは洗浄した上で寄付しています。今年度は38,700個のキャップが集まり、約90キロになりました。

2つ目は、募金活動です。今年度の前期ではウクライナの緊急募金、後期では赤い羽根募金へそれぞれ募金を行いました。生徒会執行部で募金先の決定を行い、登校時間に合わせて生徒の昇降口に立って募金活動をしました。

3つ目は、クリーン活動です。通学路を清掃し、地域の方への感謝の気持ちを表すことを目的としています。学校から三河一宮駅までの通学路やその周辺を業後の時間を使って清掃します。生徒会執行部だけでなく、清掃美化係との連携や自由参加者を募り、毎回20名から30名ほどが参加しています。

4つ目は、あいさつ運動です。あいさつの習慣化

をはかり、思いやりの心を育てることを目的としています。生徒会執行部だけでなく、総務委員と連携し、生徒の昇降口や校門付近に立って、地域の方にも気持ち良いあいさつをするように心がけています。

4つのボランティア活動は全て放送やポスターを使って呼びかけを行い、全校生徒の積極的な参加に繋がっています。募金活動の様子やクリーン活動の様子の写真です。

令和5年度についても4つのボランティア活動を継続し、学校を活気づけるだけでなく、社会奉仕活動に全校で力を入れていける様に生徒会執行部として頑張っていきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

御津高等学校の発表

私たちは、今年度ボランティア活動が行われた中で一つピックアップして紹介します。それは、“MITO INARIZUSHI COMPANY”、通称“MIC”の活動です。



これは、豊川の松屋さん主催の“いなり甲子園”に参加し、オリジナルいなり寿司の高校生No.1を決めるものです。昨年からはじまった“いなり甲子園”ですが、今年度は10月22日(土)に豊橋のエムキャンパスで開催され、豊橋商業高校、新城有教館高校、御津高校が参加をしました。

私たちは、多国籍、海外交流があり、個性が豊かという御津高校らしさを表すいなり寿司を考えました。そして、作られたのが“わたしのぼっけ”です。酢飯を詰めた油揚げの上に好きな具材やソースなどを好きなだけトッピングでき、自分のオリジナルを作ること、いなり寿司が英語で寿司ポケットというところからこの名前が付けました。

この活動での御津高校の狙いは、豊川のいなり寿司を世界中の人に知ってもらうこと。楽しくいなり寿司を作って食べてもらうこと。自分らしいいなり寿司を作ってもらうことです。

いなり寿司甲子園では、日本語だけの発表ではなく、英語、中国語、フィリピンで主に話されるタガログ語、ブラジルで話されるポルトガル語を使って発表したり、いなり寿司の美味しさや魅力を知ってもらうためのオリジナルソングのラップを作って披露したり、実際に審査員の方々に作るのを体験して

もらいました。結果は惜しくも優勝を逃してしまいましたが、豊川名産のいなり寿司の魅力を発信するという貴重な経験が出来たと思います。

その他にも御津高校では、豊川リレーマラソン2022 ボランティア、令和4年度青少年ボランティア、体験学習、若者ボランティア体験講座、縁日参りプロジェクト豊川稲荷ヨルモウデ、2022年夏の特別期間VR体験会ボランティア、日本語コンテストボランティア、2022年トヨカワシティマラソンボランティアなどに参加をしました。ご清聴ありがとうございました。

★ボラン・コラボ・穂の国7交流会

テーマ：ボランティアをする仲間を増やす

にはどうしたら良いと思いますか？



まとめ発表

- 身近でないと興味を持ってくれないので、子どもと遊んだり、高齢者の介護から始める。
- 学園祭に地域の人たちが来てくれるから、そこで呼びかけをする。
- 学校通信を使って全校に呼びかけることをする。
- 地域ではポスターで呼びかけをする。
- 一度参加してくれた人には、実際にやりたいボランティアを取り入れて2回目もやってもらうようにする。
- 先生から呼びかけをしてもらって、ボランティアをする雰囲気を作る。
- クラス対抗で競い合って表彰をする。
- 人と関わるボランティアで、良かったとか楽しかったと思える活動をしてもらう。

会報担当：大仁孝泰・鈴木卓也